

## 武家の古都・鎌倉シンポジウム<sup>®</sup>18開催

# 「世界遺産と鎌倉の遺産相続問題」講演とパネル討論

平成20年11月16日(日)、鎌倉商工会議所地下ホールにて、〈武家の古都・鎌倉連続シンポジウム<sup>®</sup>〉が開催されました。この連続シンポジウムは、鎌倉の世界遺産登録を市民の手で実現することを目的に、鎌倉風致保存会に事務局を置いて平成11年に設立された、市民の運営による「鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会」が半年に1度開催を続けているもので、今年は足掛け9年目、18回目を数えます。当推進協議会が発足した後の14回目からは、推進協議会が共催参加しています。

今回は、いよいよ世界遺産登録申請を間近に控えて切実な問題となっている、現在の鎌倉のまちなみ景観保全について、東大大学院の西村幸夫教授の講演を伺い、その後、地元の景観保全や邸園文化圏構想を実践しているNPOの専門家のパネルディスカッションを行いました。

まず、シンポジウムの冒頭に、鎌倉風致保存会の小金丸良事務局長から、鎌倉風致保存会が公益法人制度改革に伴い、寄付金の優遇措置が受けられる公益財団法人となる事の意義が紹介されました。これにより、鎌倉風致保存会に土地や建物を寄付した場合、個人は寄付金控除の対象となり、法人は寄付金の損金算入が可能となるため、相続問題等で寄付を希望されたとき、その受け皿に



なることが可能になりました。これは、鎌倉の遺産相続問題に一筋の光明をもたらすものです。続いて「鎌倉のまちなみー10年前と今」の映像が紹介されました。

基調講演は、西村幸夫さんから、施行されたばかりの「歴史まちづくり法」など、専門家の立場から非常に実践的な景観保全の手法を具体的に教えていただくという、大変貴重な講演でした。この講演要旨を、次ページに掲載しています。

シンポジウムは「見えてきた可能性 鎌倉のまちなみ景観保全」として、パネリストに西村さん、小金丸さん、NPO代表の菅孝能さん、波多周さんを迎え、田川陽子さんをコーディネーターとして、鎌倉市内で実践されている景観保全活動について、その現状と市民の努力、将来展望を会場の参加者ととともに熱心に話し合いました。

歴史的価値ある鎌倉の景観を未来につなげていく重要性と、その方法を具体的に検討した討論となりました。

## はじめての鎌倉まちなみツアー☆鎌倉の景観を観賞しました

武家の古都・鎌倉連続シンポジウム第18回のテーマは「世界遺産と鎌倉の遺産相続問題～失われていく風景を取り戻せるか～」です。世界遺産登録の候補となる国史跡とともに、バッファゾーンの対象である鎌倉市街地のまちなみが世界遺産都市にふさわしい景観なのかどうか、午後のシンポジウムに先立ち午前を実施されました。

鎌倉には寺社や史跡をめぐるツアーは数多いものの、まちなみ景観をテーマとするものは多くありません。今回は鎌倉駅から半径約1.5km圏内の小町・雪ノ下・御成町界限とし、テーマを①鎌倉らしいまちなみの確認



守っていききたい鎌倉らしいまちの姿

②失われたまちなみの現状 ③行政や事業者による景観の創出 としました。

参加者は約60名、ガイドは市都市景観課職員と地元の建築家が行いました。主なポイントは下記の通りです。

- 市役所屋上から駅周辺ビルの屋上看板抑制の状況
- 整備された御成小学校横の歩行者歩道と保全活用が望まれる講堂
- 旧安保小児科医院をはじめとする市重要景観建造物の現状
- 駅周辺ビルや店舗サインの色彩コントロール
- 市指導要綱による若宮大路の建築物の高さ15mへの抑制
- 住宅地における準公共空間の創出
- 邸宅跡地のミニ住宅開発および駐車場化の様子
- 保全が求められる県立近代美術館本館
- 市に寄贈され現在記念館建設中の旧川喜多邸とその周辺
- 当日公開された鎌倉三大洋館のひとつ古我邸の庭園
- 新しい緑景観を創出した邸宅跡地開発 など

予定のルートは一部割愛されたものの、ほぼ所期の目的は達成されました。